

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和元年度 病虫害発生予察情報について（送付）

果樹カメムシ類の予察灯誘殺虫数、餌植物での寄生虫数および口針鞘数が増加傾向にあり、果樹園へ飛来、被害発生が懸念されます。今後の発生動向に注意し、適切な防除を行ってください。

病虫害発生予察 注意報第2号

1 農作物名 カンキツ、ナシ、カキ

2 病虫害名 果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）

3 予報内容

- (1) 発生地域 県本土（主に北薩地域）
(2) 発生量 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、8月第4半旬頃から増加傾向を示し、特に9月第1半旬は平年や被害のみられた平成29年を上回る（図1）。また、ツヤアオカメムシについても平成29年より早く9月第1半旬から増加傾向にある。
- (2) ヒノキ球果で、チャバネアオカメムシ成虫および幼虫の寄生虫数が平年と比べて多い（図2）。
- (3) 9月前期（3～6日）の口針鞘数は、2.8～18.8本（平均12.9本/果）で、餌の劣化が急速に進んでいる地点がみられる（図3）。今後、口針鞘数が増加し25本/果（ヒノキからの離脱の目安）を越える地点が出てくることが予想される。
- (4) 出水市、いちき串木野市、霧島市で飛来を認める果樹園があり、一部ではカンキツへの加害も認められている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期を迎えている極早生温州、ナシ、カキでは注意する。
- (2) 山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来数が多くなる傾向があり、特に防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
- (3) 餌となるスギ・ヒノキの球果が、台風等で落果すると、果樹園へ飛来する可能性があるため注意する。
- (4) 飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長する可能性があるため、散布後はハダニ類の発生に注意する。
- (5) 防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

本情報は鹿児島県病虫害防除所ホームページ
(www.jpnn.ne.jp/kagoshima)にも掲載していますので
ご利用ください。



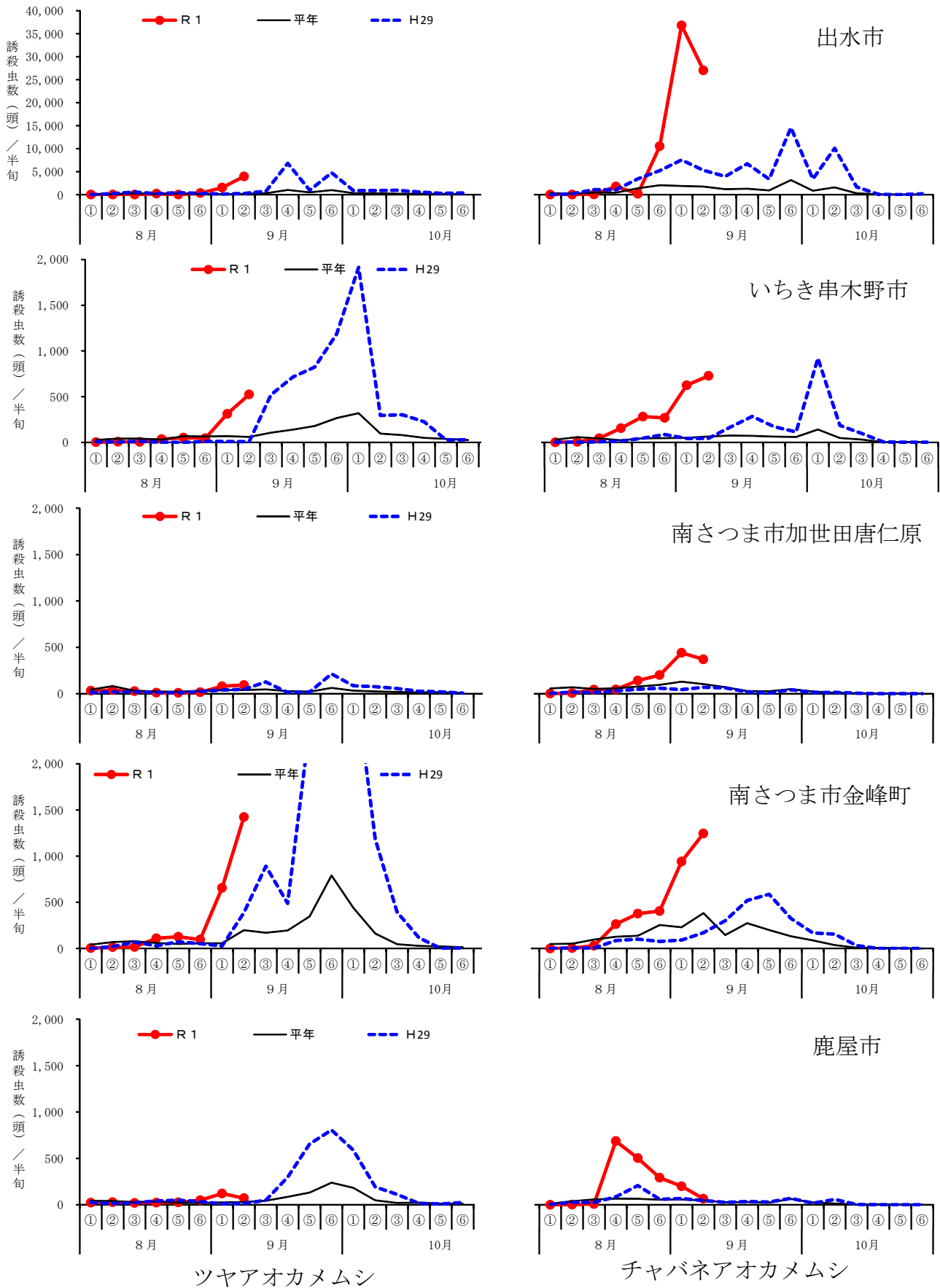


図1 予察灯でのツヤアオカメムシとチャバネアオカメムシ誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間、他は過去8年間の平均値。平成29年：直近で被害がみられた年。
 捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯、鹿屋市 補虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯

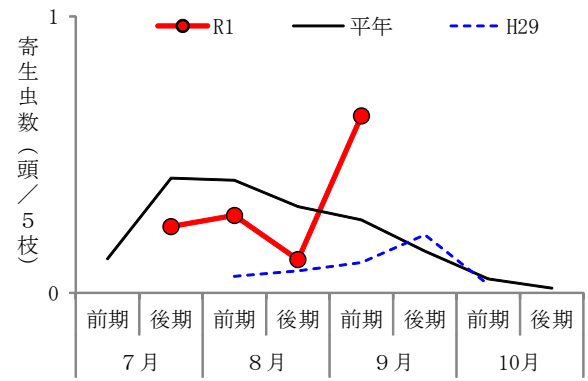
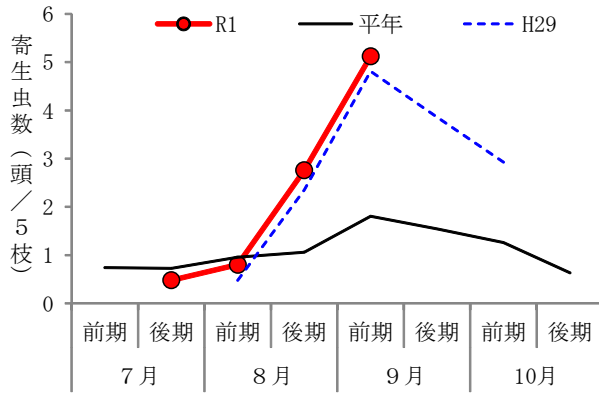


図2 ヒノキのチャバネアオカメムシの寄生虫数 (左：成虫，右：幼虫)

注) 餌植物であるヒノキの寄生虫数を調査。1地点当たり5か所の調査ポイントを設定し、1か所あたり5枝の合計25枝でおこなった。
平成29年：直近で発生が多かった年

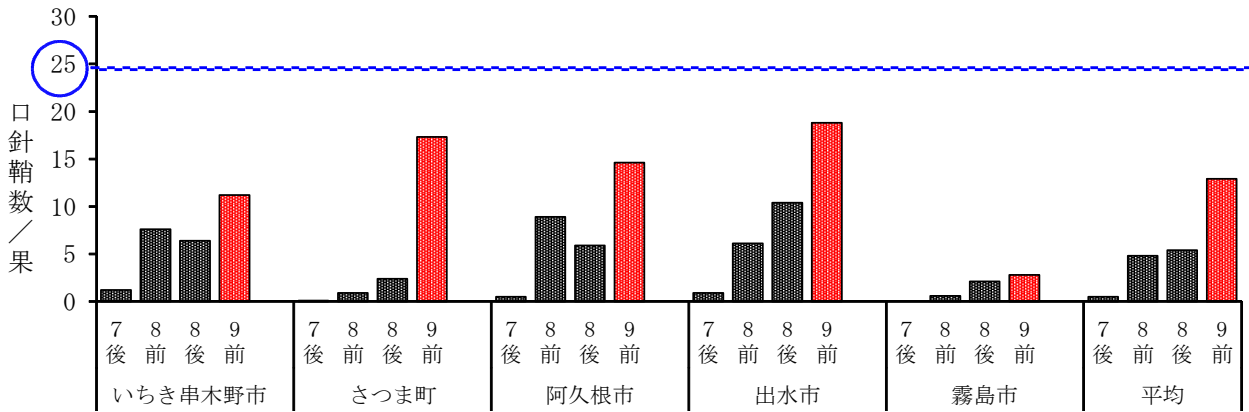


図3 ヒノキ球果の口針鞘数

注) 口針鞘数が25本/果以上が、ヒノキからの離脱の目安